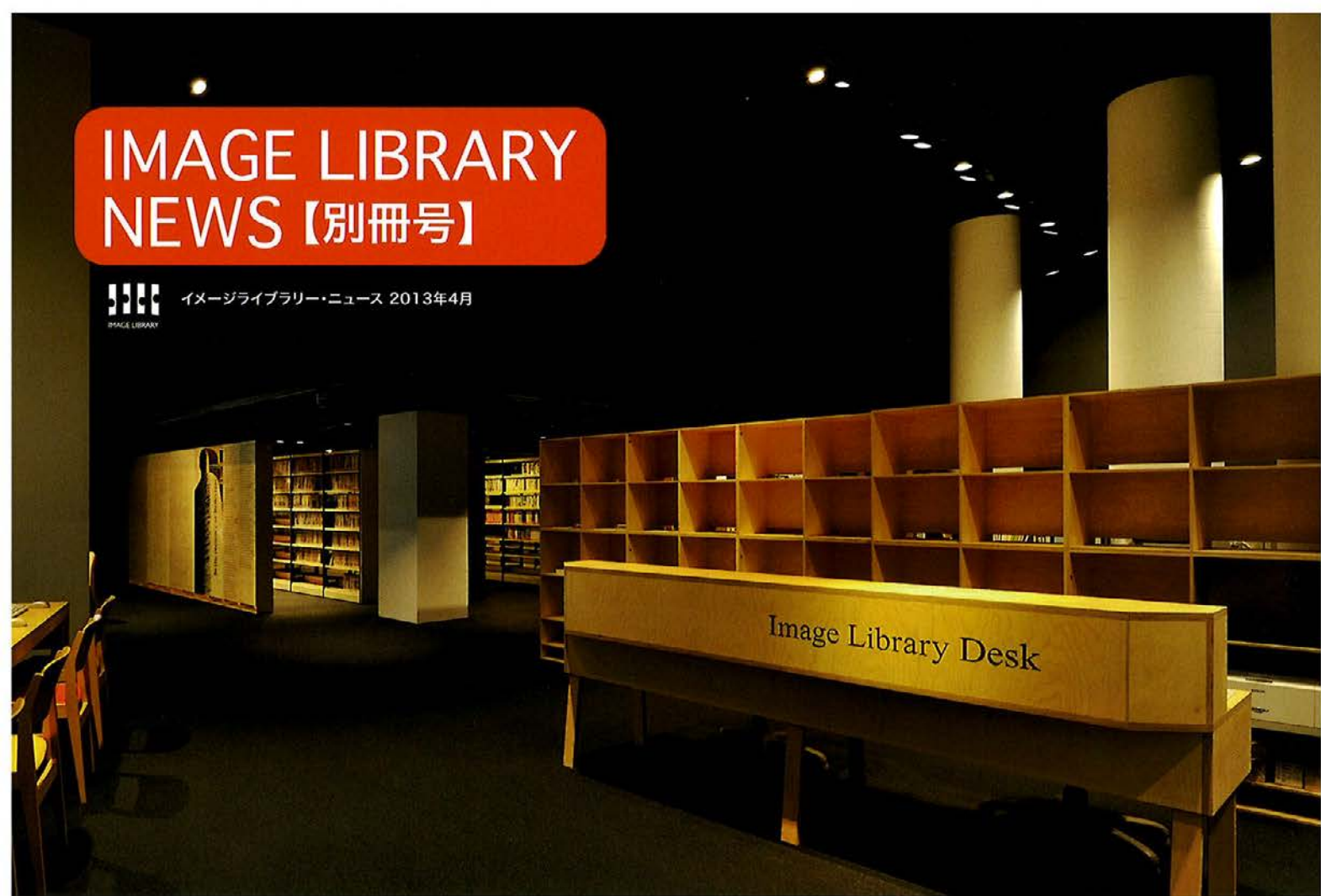


IMAGE LIBRARY NEWS【別冊号】



イメージライブラリー・ニュース 2013年4月



これだけは見ておこう！ 必見映画選

イメージライブラリーは映画・映像資料を専門的に收藏する施設です。歴史的・芸術的に重要な作品だけでなく、作品制作に役立つと思われる資料にも重点を置いて収集しており、その数は約1万7000タイトルになります。これらの資料は、世界で初めて一般公開されたリュミエール兄弟の「列車の到着」など創成期の映画から、現代美術としてのビデオ作品まで、劇映画だけでなくアニメーション、ドキュメンタリー、実験映像など、様々なジャンルにわたっています。

学生のうちに観ることができるのは、ほんの一部かもしれません。しかし、たったひとつの作品との出会いが、豊かな創造や研究の糸口となってくることがあります。動く映像(イメージ)には、無数のキーワード(物語、運動、リズム、音、光、構図…)が潜んでおり、それらを紐解くことは多様に広がる表現の世界へとアクセスすることなのです。

19世紀末に発明された映画は当初、見世物的な娯楽として瞬く間に大衆へと受け入れられました。1910年には、リッチョット・カニュードが「第七芸術宣言」を著し、建築、彫刻、絵画、音楽、詩、舞踊に次いで第七番目の芸術*1として映画を位置づけ、空間芸術(建築、彫刻、絵画)と時間芸術(音楽、詩、舞踊)を統合した新しい芸術であると定義しました。映画は、それら先進の諸芸術や映像前史からの探求—絵を動かすことへの興味や世界を克明に記録することへの驚き、運動解析の欲望*2—などを引き受けながら、20世紀の芸術運動とも深く関わり合ってきました。そして現代のメディア表現や表象文化研究においても、映画が辿ってきた歴史や映像メディアの役割は益々広範にわたり要請されることでしょう。

このように極めて親和性の高い映像メディアは、多彩な芸術領域との結びつきのなかで多くのインスピレーションを与えてくれる筈です。一方で、作品との出会いは予め用意されるものではありません。興味の幅を広げることは素晴らしい出会いの可能性を広げることであります。

イメージライブラリーでは、<ムサビで学びみなさんに是非観ていただきたい作品>というテーマのもと、所蔵作品の中から一部をピックアップしました。映画史上重要な作品だけでなく、芸術として特筆すべき作品、実験精神にあふれた作品、デザイン的に優れた作品などを掲載しています。年代順に並んだリストを映画史的に辿ることもできますし、アイコンでジャンル別に探すこともできます。また、チェックボックスで観た作品や気になる作品をチェックすることもできるようになっています。

是非このリストを片手にイメージライブラリーを訪れて、新しい作品との出会いを体験してみてください。

*1 フランス語では、映画のことを「第七芸術」(septième art)とも表現する。

*2 映画誕生以前、走る馬がどのように足を着地しているのが画家たちの間で議論となっていた。その答えを出したのが、エドワード・マイブリッジの発明による連続写真である。





ドイツ零年 □
ロベルト・ロッセリーニ
(1948年/イタリア)

映画の冒頭、敗戦もないベルリンで撮影された真実の姿は圧倒的な迫力である。瓦礫の中で生き延びる人々は、もはやモラルや慈愛の精神を持ち合わせてはいない。けなげに生きる少年を軸に、戦争が招いた悲劇を冷静な眼差しで描くネオリアリズムの代表作。



雨月物語 □
溝口 健二
(1953年/日本)

江戸時代の怪談集を基に、乱世の時代に欲にとらわれた人間の姿を綴った絵巻物のような時代劇。ワンシーン・ワンショットの人物凝視による演出により画面には気迫が満ち、闇と光の濃淡で描かれた妖艶な死霊との戯れに特筆される幽玄美は白黒映像美の極致である。



大人は判ってくれない □
フランソワ・トリュフォー
(1959年/フランス)

家庭や社会から疎外され、ついには感化院送りになってしまう多感な少年の姿を、即興演出とロケ撮影によるのびやかで瑞々しい映像で描いたヌーヴェル・ヴァーグの代表作。監督トリュフォーの自伝的要素の濃い作品で、その後約20年に渡り続編4作が制作された。



ラ・ジュテ □
クリス・マルケル
(1962年/フランス)

廃墟と化した第三次世界大戦後のパリからタイムトラベルした男は、過去の世界で見覚えのある女性に出会う。記録映画作家のマルケルが記憶をモチーフに描くSF映画。白黒の静止画とモノローグで綴られた、映像の無限の可能性を示した衝撃作。



2001年宇宙の旅 □
スタンリー・キューブリック
(1968年/アメリカ)

科学的根拠に基づき徹底したリアリズムの追求やクラシック音楽の起用など、それまでのSF映画の常識を覆した傑作。人類創生から新人類の誕生までを描く。ヒトザルが投げた骨がゆるやかに下降しながら宇宙船にすりかわるジャンプ・カットは、映画史に残る名シーンである。



薔薇の葬列 □
松本 俊夫
(1969年/日本)

ゲイの少年が母を殺し父と交わるという現代のオイディプス神話を、素人のゲイボーイや主人公へのインタビュー、新宿街頭でのゲリラ撮影等を取り入れた虚実ないまぜの実験的手法で描く。監督は映像理論、ドキュメンタリー、実験映像の世界で活躍する松本俊夫。



リトアニアへの旅の追憶 □
ジョナス・メカス
(1950～72年/英・西独合作)

リトアニアからアメリカへ亡命し、27年後に母や友人達と再会するまでの日々を3部構成でまとめたメカスの代表作。メカスはアメリカ実験映画史に絶対的な影響力を持つ作家・オーガナイザー。本作のように、日常生活の断片的な記録を集積した“日記映画”というスタイルを生み出した。



フェリーニのローマ □
フェデリコ・フェリーニ
(1972年/イタリア)

フェリーニが魂の故郷ローマへ捧げた幻惑的で摩訶不思議な映像世界。青年期の記憶から現代まで時間を奔放に行き来し、現実と虚構が入り混じったエピソードをモザイク状に構成することで、目の前に人格を持った巨大な生き物のようなローマが立ち上がってくる。



鏡 □
アンドレイ・タルコフスキー
(1975年/ソ連)

ロシアの映像詩人による記憶と夢のイメージで織り込まれた美しい映像詩。幼少の記憶、夢の中の風景、戦争の記録フィルムなどを用いて幻想的なイメージにより人生の感覚を映像で伝えようとした純粋な試み。映像の快楽とも言ふべき幸福な時間に立ち会う。



タクシー・ドライバー □
マーティン・スコセッシ
(1976年/アメリカ)

世界の不浄さに苛立ちを募らせ、大統領候補の暗殺を企てるベトナム戦争帰りの孤独なタクシードライバーの姿を通し、都会に潜む狂気を浮き彫りにする。社会通念を欠いた鬱屈した青年の心の闇が、凄惨な暴力の現場へと収束していく過程には息を呑む。



パワーズ・オブ・テン □
チャールズ&レイ・イームズ
(1977年/アメリカ)

公園でピクニックする男女を起点に、10の累乗のスピードで宇宙から原子核までを旅する。イームズ夫妻は革新的なデザインで近代家具の歴史に大きな進展をもたらした一方で、映像の分野でも優れた作品を数多く残した。イメージライブラリーは49作品を所蔵している。



対話の可能性 □
ヤン・シュヴァンクマイエル
(1982年/チェコスロバキア)

アニメーションの手法で人間の様々な対話の諸相を3部構成で描く。果実や台所用品でできた顔同士がお互いを食らいあい咀嚼する『永遠の対話』、粘土で男女の愛を描く『情熱的な対話』など。人間のコミュニケーションの断絶や誤解を哲学的に風刺している。

◎本誌は「イメージライブラリー・ニュース第18号」掲載の「これだけは見ておこう!必見映画選」を抜粋・増補したものです。

◎全170作品は映像学教授の指導のもと、本学の授業で頻繁に取り上げられる作品や映画史的な位置付けを考慮した上で選抜しています。

◎作品は制作年順に並んでいます。

◎タイトルとジャンルは作品のもの表記しています。作品が収録されている資料のタイトル・ジャンルとは異なる場合があります。

◎イメージライブラリーの検索システムで作品の詳細な情報を調べることができます。

検索システム(学内アクセス): <http://imagelib-dsvr10.musabi.ac.jp/img-lib-search/> 検索システム(学外アクセス): <http://img-lib.musabi.ac.jp/search/>

タイトル	監督・制作者	制作年 制作国	解説	<input checked="" type="checkbox"/>
浮雲	成瀬 巳喜男	1955年 日本	敗戦後の虚無感の中で転落してゆく一組の男女を描く。理屈で割り切れない人間の心情を、眼差しや身ぶりの描写の積み重ねによって炙り出す。	<input type="checkbox"/>
第七の封印	イングマル・ベルイマン	1956年 スウェーデン	騎士は死神に死を賭けてチエスの勝負を挑む。中世世界の人間と死の戯れを、厳格な演出と宗教画のような美しい映像で描いた神祕劇。	<input type="checkbox"/>
ピカソ-天才の秘密-	アンリ・ジョルジュ・クルーゾー	1956年 フランス	常にひとつの形に固執することのないピカソの大胆な筆づかいを間近に捉える。クルーゾー監督の被写体の捉え方は記録映画の域を越えた。	<input type="checkbox"/>
幕末太陽傳	川島 雄三	1957年 日本	幕末の品川遊郭に居座るひとりのお調子者を描く傑作コメディ。職人芸の域に達したスピード感溢れる演出と一瞬の静。鬼才・川島雄三の代表作。	<input type="checkbox"/>
ぼくの伯父さん	ジャック・タチ	1958年 フランス	だばだばコートに雨傘、くわえパイプがトレードマークのコロ伯父さんが巻き起こす騒動を描いた長編喜劇。ポエジー溢れる町の描写が楽しい。	<input type="checkbox"/>
灰とダイヤモンド	アンジェイ・ワイダ	1958年 ポーランド	対独レジスタンスの青年にもたらされる悲劇。ナチス解放後も連年の支配から脱し得なかった祖国の内情を“ポーランド派”監督が直視する。	<input type="checkbox"/>
アメリカの影	ジョン・カサヴェテス	1959年 アメリカ	ハリウッドの製作システムを否定し、自主製作の道を切り拓いたカサヴェテスの処女作。シナリオのない即興演出で、異人種間の愛に肉薄する。	<input type="checkbox"/>
若者のすべて	ルキノ・ヴィスコンティ	1960年 イタリア	南部からミラノへと移住してきた貧しい一家が、大都市の中で崩壊していく様を描いた叙事詩。監督は『ベニスに死す』等の耽美的作品で有名。	<input type="checkbox"/>
情事	ミランジェロ・アントニオーニ	1960年 イタリア	突然失踪した女性を探す親友と婚約者。謎いしつつ二人の情事にすり替わる。愛の不毛、コミュニケーションの不在、時代の倦怠感を描く。	<input type="checkbox"/>
地下鉄のザジ	ルイ・マル	1960年 フランス	少女ザジのハリ見物の模様を描いたどばどば喜劇。原作者はシュルレアリストのR・クノー。エッフェル塔の螺旋階段のシーンは圧巻。	<input type="checkbox"/>
裸の島	新藤 兼人	1960年 日本	瀬戸内海の孤島で生きる一家。水のない島に夫婦は毎日対岸から小舟で水を運ぶ。一切の台詞を排し映像と音のみで人間の営みを描く。	<input type="checkbox"/>
ドッグ・スター・マン	スタン・ブラッケー	1961年 アメリカ	アメリカ実験映画史上の古典的作品。血液や内臓といったミクロから宇宙のマクロまでの映像断片が交錯し、宇宙論的イメージが湧き出す。	<input type="checkbox"/>
去年マリエンバードで	アラン・レネ	1961年 フランス	男の言葉に従い、女は覚えてはいない去年の情事の記憶を作り上げていく。シントリー構図の中で紡がれる時間と空間、意識と無意識の迷宮。	<input type="checkbox"/>
黒い十人の女	市川 崑	1961年 日本	男への復讐を図る十人の女たち。モノクロ画面を活かしたスタイリッシュな映像は、市川崑のモダニズムの真骨頂。女優陣の華やかさも魅力。	<input type="checkbox"/>
水の中のナイフ	ロマン・ポランスキー	1962年 ポーランド	船上の閉じた空間で次第に狂気を帯びてゆく3人の男女を、繊細なグレーの色彩と抑えた台詞、ジャズを用いて筒深かつ鋭利な演出で描いた。	<input type="checkbox"/>
長距離ランナーの孤独	トニー・リチャードソン	1962年 イギリス	イギリスの労働者階級と体制への反逆を描くフリー・シネマの代表作。感化院に送り込まれた少年の怒りと自尊心を生き生きと描く。	<input type="checkbox"/>
人間動物園	久里 洋二	1962年 日本	武満徹のヴォーカリズムに合わせ、檻の中で男は女に大のようにあしらわれ、リードで引っ張られる。ブラックユーモアの効いた作品。	<input type="checkbox"/>
十三人の刺客	工藤 栄一	1963年 日本	シントリーやクロス・アップなどスタイリッシュな構図で描写した時代劇サスペンス。悪徳藩主を討ち取る13人の武士の策略を描く“集団時代劇”。	<input type="checkbox"/>
鼻	アレクサンダー・アレクセエフ	1963年 フランス	ピンスクリーンの創始者による作品。ピンの凹凸によって描かれた絵は白から黒までをつなぐハーフトーン豊かな色調を見せている。	<input type="checkbox"/>
奇跡の丘	ピエロ・パオロ・パソリーニ	1964年 イタリア	詩人、作家、批評家、画家など多岐にわたって活動した急進的作家パソリーニの表現形式が確立された作品。〈クタイによる福音書〉の映画化。	<input type="checkbox"/>
砂の女	勅使河原 宏	1964年 日本	安部公房の小説を映画化した前衛的傑作。砂丘地帯の穴に閉じ込められた男の不条理な心理変化と、強迫的な砂の造形美。	<input type="checkbox"/>
赤い殺意	今村 昌平	1964年 日本	雪国を舞台に抑圧された女の成長を斬新なカメラワークで描く衝撃作。人間の欲を直直く見据えた圧力のある演出で“悲喜劇”と呼ばれた。	<input type="checkbox"/>
気狂いピエロ	ジャン・リュック・ゴダール	1965年 フランス	全編シナリオなしの即興演出と、既成の映像・言葉・音からの引用で構成。既成の映画文法にとらわれない革新的な語り口は世界に衝撃を与えた。	<input type="checkbox"/>
ひなぎく	ヴェラ・ヒティロヴァ	1966年 チェコスロバキア	社会主義全盛期の東欧において自由を謳歌する二人の少女を風刺的に描き、監督のヒティロヴァはこの後数年間映画を撮ることを禁止された。	<input type="checkbox"/>
ポリ・マーグお前は誰だ?	ウィリアム・クライン	1966年 フランス	写真家ウィリアム・クラインが、コラージュなどの前衛的な手法を多用して1960年代のノリのモード界をアイロニカルに描く。	<input type="checkbox"/>
盗まれた飛行船	カレル・ゼマン	1966年 チェコスロバキア	トリック映画の巨匠カレル・ゼマンは実写・書刺・アニメーションを組合せ、幻想の世界を描いた。動く銅版画のような『悪魔の発明』も必見。	<input type="checkbox"/>
EMOTION-伝説の午後 いつか見たドラキュラ	大林 宣彦	1966年 日本	映像の魔術師・大林宣彦の原点ともいえる自主製作時代の作品。実験的な手法を駆使し、当時のアンダーグラウンド映画界を沸かせた。	<input type="checkbox"/>
日本春歌考	大島 渚	1967年 日本	60年代の騒然とした東京を舞台に性の歌である春歌を軸に描く異色の青春映画。抑圧された心を春歌に託す青年の姿が当時の時代を体現する。	<input type="checkbox"/>
チチカット・フォーリーズ	フレデリック・ワイズマン	1967年 アメリカ	ダイレクト・シネマの巨匠ワイズマンがマサチューセッツ州の精神異常犯罪者の矯正施設の日常を捉える。1990年まで上映禁止とされた問題作。	<input type="checkbox"/>
初恋:地獄篇	羽仁 進	1968年 日本	孤独な少年とスドモデルの少女の恋を現実と幻想とを織り混ぜて描く。思春期のみが持つ危うい美しさを素人役者での即興演出で描き出した。	<input type="checkbox"/>
イエロー・サブマリン	ジョージ・ディニング	1968年 イギリス	ビートルズとブルー・ミーニー族との戦いをユーモラスに描いたアニメーション。サイケデリックなデザインや実験的手法は今でも刺激的だ。	<input type="checkbox"/>
イージー・ライダー	デニス・ホッパー	1969年 アメリカ	ドラッグ、人間関係、ベトナム戦争…病めるアメリカの姿は今も変わらない。この国の目指す「自由」とは? アメリカン・ニューシネマの代表作。	<input type="checkbox"/>
ケス	ケン・ローチ	1969年 イギリス	炭鉱の町で暮らす少年の唯一の楽しみは餌付けしたハヤブサのケスを訓練する事。くすんだ炭鉱町とハヤブサが舞う美しい草原の対比が印象的。	<input type="checkbox"/>
私が棄てた女	浦山 桐郎	1969年 日本	1960年代後期の世相を背景に、60年安保で挫折を味わい、今はサラリーマンとして出世コースを歩む男が抱える人生と愛の偽りを描く。	<input type="checkbox"/>
心中天網島	篠田 正浩	1969年 日本	絵や文字で装飾したセットなど独特の美学で近松門左衛門の人情浄瑠璃を映画化。男女の死の逃避行に黒衣の人影造りが死神のように寄り添う。	<input type="checkbox"/>
エル・トボ	アレハンドロ・ホドロフスキー	1970年 チリ	チリ出身の監督が、子連れのガンマンの決闘と死、復活を旧約聖書になぞらえて描く。暴力と聖性、西部劇と宗教映画が渾然となった異色作。	<input type="checkbox"/>
暗殺の森	ベルナルド・ベルトルッチ	1970年 イタリア	政治と官能を主題に作品を作り続けるベルトルッチ監督が、時代に順応しファシズムに傾倒していく青年の姿を通し、ブルジョワの退廃を批判。	<input type="checkbox"/>
無常	実相寺 昭雄	1970年 日本	近親相姦のタブーを犯すという世界観を残酷なほどに美しいモノクロの映像美で描く。監督はウルトラマンシリーズ等も手掛ける実相寺昭雄。	<input type="checkbox"/>
コンセプト・テープ1.2.3	飯村 隆彦	1970年 日本	飯村氏のコンセプトualな構造映画は、映画の物理性と哲学的な要素を提示する。初期作品の『くず』や『AI (LOVE)』も必見。	<input type="checkbox"/>
ざくろの色	セルゲイ・パラジャーノフ	1971年 ソ連	アルメニアの詩人リヤト・ヴォヴァの生涯を美しい8章の映像詩で綴る。目の醒めるような神秘的な色彩で描かれた絵画的な世界。	<input type="checkbox"/>

■映画 ■アニメーション ■ドキュメンタリー ■アート映像・実験映像 ■美術 ■舞台・演劇・ダンス ■音楽 □その他



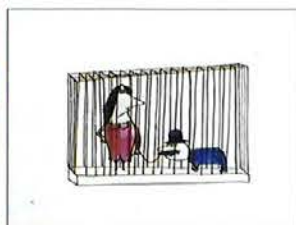
「ざくろの色」1971年



「心中天網島」1969年



「気狂いピエロ」1965年



「人間動物園」1962年



「第七の封印」1956年

タイトル	監督・制作者	制作年 制作国	解説	<input checked="" type="checkbox"/>
工場の出口	リュミエール兄弟	1895年 フランス	シネマトグラフの発明者リュミエール兄弟の最初の映画。これがパリのグラン・カフェで公開されたその時が“映画の誕生”とされている。	<input type="checkbox"/>
月世界旅行	ジョルジュ・メリエス	1902年 フランス	メリエスはフィルム操作によるトリック撮影の発見者。映画に脚本などの演劇的要素を取り入れた。月の目にロケットが突っ込むシーンは有名。	<input type="checkbox"/>
イントレランス	D・W・グリフィス	1916年 アメリカ	グリフィスは、数々の新手法を映画に取り込んだ“アメリカ映画の父”。不寛容によって起こった歴史上の4つの事件を同時進行で交互に描く。	<input type="checkbox"/>
カリガリ博士	ロベルト・ヴィーネ	1919年 ドイツ	20世紀初頭の芸術運動“表現主義”の最初の映画で代表的作品。精神病者の妄想を奇怪に歪んだ空間と人工的な照明によって描く。	<input type="checkbox"/>
リズム21	ハンス・リヒター	1921年 ドイツ	抽象形態のみで構成される“絶対映画”の代表作。ダダイストのリヒターが、映像の運動のみで視覚的リズムを生み出すことを試みる。	<input type="checkbox"/>
極北のナヌーク	ロバート・J・フラハティ	1922年 アメリカ	イヌイットの暮らしを描いたドキュメンタリー映画の草分け。真実を伝える為、時に演出されたフィルムは発見の驚きと喜びで輝いている。	<input type="checkbox"/>
最後の人	F・W・ムルナウ	1924年 ドイツ	ホテルのドアマンが高齢のためトイレ番にされる悲哀。携帯可能になり自由に移動撮影するカメラが、登場人物の内面を雄弁に語る。	<input type="checkbox"/>
幕間	ルネ・クレール	1924年 フランス	バレエ(美術ピカピカ/楽曲サティ)の幕間で上映するために制作された。踊り子、蟹気楼などのイメージが抽象的な運動のリズムを作り出す。	<input type="checkbox"/>
バレエ・メカニック	フェルナン・レジェ	1924年 フランス	キュビズムを代表する画家の一人レジェによる映画。リズムや形態の類似によって結び付けられたモチーフによって、映画における対位法を試みる。	<input type="checkbox"/>
戦艦ポチョムキン	セルゲイ・M・エイゼンシュテイン	1925年 ソ連	ウジ虫入りのスープを飲まされるポチョムキン号の兵士の反乱を、独創的なモンタージュ技法によって映像言語化した映画史上先駆的な傑作。	<input type="checkbox"/>
メトロポリス	フリッツ・ラング	1926年 ドイツ	近未来社会の恐怖を鋭くついたサイレント時代の古典SF。その世界観、都市やロボットの洗練を極めた造形は、その後多くの模倣を生んだ。	<input type="checkbox"/>
アネミック・シネマ	マルセル・デュシャン	1926年 フランス	マルセル・デュシャンが、映画の光学的な効果に到達する、より実験的な方法として制作したダダ映画。螺旋が描かれた円盤が回りつづける。	<input type="checkbox"/>
アンダルシアの犬	ルイス・ブニエル サルバドル・ダリ	1928年 フランス	無意識から生まれたイメージを脈絡なく連結したシュルレアリスム映画の代表的作品。刃切られる眼、手の平の蝶…不条理が強烈な印象を残す。	<input type="checkbox"/>
キートンの蒸気船	チャック・ライズナー バスター・キートン	1928年 アメリカ	久々に父の元に戻る息子は目印にカーネーションをつける。しかし今日は母の日なので同じ花が…。練られた脚本と超人的なアクションが圧巻。	<input type="checkbox"/>
裁かるゝジャンヌ	カール・ト・ドライヤー	1928年 フランス	デンマークの巨匠ドライヤーが、ジャンヌ・ダルク裁判を題材に、人間の表情の執拗なクロス・アップの積み重ねによる心理描写を追求する。	<input type="checkbox"/>
ひとで	マン・レイ	1928年 フランス	シュルレアリスムのアーティスト、マン・レイは、絵画、彫刻、映画など幅広い創作活動をした。ロベール・デスノスの詩に着想を得た作品。	<input type="checkbox"/>
カメラを持った男	ジガ・ヴェルトフ	1929年 ソ連	“キノグラース”という、ジガ・ヴェルトフ独自の映画理論に基づいた実験的なドキュメンタリー映画。	<input type="checkbox"/>
フランケンシュタイン	ジェームズ・ホエール	1931年 アメリカ	後の怪奇映画に多大な影響を与えたホラーの古典的作品。首にボルトが刺さった怪物のイメージはこの映画から生まれた。	<input type="checkbox"/>
新学期 操行ゼロ	ジャン・ヴィゴ	1933年 フランス	寄宿学校の管理体制に反抗し、自由を求め革命を起こす子供達。羽根枝を引きちぎり屋根の上を駆け回る小さなアナキスト達の姿が輝かしい。	<input type="checkbox"/>
丹下左衛門 百萬両の壺	山中 貞雄	1935年 日本	庶民の人生の機微を、軽妙な笑いに包んで描いた時代劇版小市民映画。百万両のありがたが隠された壺をめぐる騒動。	<input type="checkbox"/>
モダン・タイムス	チャールズ・チャップリン	1936年 アメリカ	喜劇王チャップリンが社会の急速な機械化に対し、人間らしさを！と叫んだ傑作喜劇。サイレントにこだわり続けた彼が初めて声を発した作品。	<input type="checkbox"/>
民族の祭典	レニ・リーフェンシュタール	1938年 ドイツ	ベルリンオリンピックの記録映画。力強く荘厳な映像美はナチの美学と合致し、戦後レニはプロパガンダの協力者として非難された。	<input type="checkbox"/>
オズの魔法使	ビクター・フレミング	1939年 アメリカ	1930年代に登場したカラーフィルムの色調は現実世界を描くには違和感があった。本作はこれを使い分け、夢の世界のみをカラーで描いている。	<input type="checkbox"/>
ゲームの規則	ジャン・ルノワール	1939年 フランス	貴族の恋愛ゲームの悲喜劇をバロックをイメージした柔らかな演出で描く映画作りのバイブル的作品。監督は印象派画家ルノワールの次男。	<input type="checkbox"/>
戦ふ兵隊	亀井 文夫	1939年 日本	戦中の記録でありながら勇ましい兵隊はひとりも登場せず、中国の雄大な自然や死にゆく軍馬への眼差しも忘れなかった一篇の詩のような作品。	<input type="checkbox"/>
駅馬車	ジョン・フォード	1939年 アメリカ	危険な荒野を疾走する駅馬車。そこへ乗り合わせた人々の人間模様と、彼らの運命の交差を描いた痛快な西部劇。その躍動感は今も色あせない。	<input type="checkbox"/>
ファンタジア	ウォルト・ディズニー(製作)	1940年 アメリカ	クラシック音楽にのり8つのエピソードがダイナミックに展開するミュージカル・アニメーション。ミッキーも登場するディズニー映画の傑作。	<input type="checkbox"/>
市民ケーン	オーソン・ウェルズ	1941年 アメリカ	弱冠25歳のO・ウェルズが、新聞王ケーンの波乱の人生を描いた処女作。斬新な構成と演出、実験的な撮影法は後の映画史に影響を与えた。	<input type="checkbox"/>
くもとちゅうりっぷ	政岡 憲三	1942年 日本	同時期の日本漫画面の傑作『桃太郎 海の子兵衛』とは対照的に、戦時色は微塵も感じられない。その繊細な動きと豊かな詩情には思わず嘆息。	<input type="checkbox"/>
午後の網目	マヤ・デレン	1943年 アメリカ	アメリカ実験映画の発祥地であり、1960年代以降にはフェミニスト映画の先駆者としての再定義がなされた。精神分析的に自殺願望の夢想を描く。	<input type="checkbox"/>
モーション・ペインティングNO.1	オスカー・フィッシングガー	1947年 アメリカ	油絵をガラス板の上に描いていく過程をコマ撮りした抽象アニメーション作品。曲はバッハの「ブランデンブルグ コンチェルトNo.3」。	<input type="checkbox"/>
自転車泥棒	ヴィットリオ・デ・シカ	1948年 イタリア	戦後困窮する人々を同時代的な視点で捉えたネオリアリズムの代表作。商売道具の自転車を盗まれてしまった父子の物語を人情味豊かに描いた。	<input type="checkbox"/>
皇帝の鷹	イジー・トルンカ	1949年 チェコスロバキア	アンデルセンの『ナイチンゲール』を題材にトルンカによって制作されたチェコの人形アニメーション。独自の視点と演出でみせる至玉の作。	<input type="checkbox"/>
オルフェ	ジャン・コクトー	1949年 フランス	前衛映画の系譜を受け継いだ詩人コクトーが描く現代のギリシャ神話。生と死を彷徨する詩人を逆回し等のトリック撮影を用いて幻想的に描く。	<input type="checkbox"/>
色彩幻想 -過去のつまらぬめもり	ノーマン・マクラレン	1949年 カナダ	フィルムに直に施すダイレクトペイントやスクラッチによる抽象アニメーション。絵に同調する音楽はジャズ界の巨匠オスカー・ピーターソン。	<input type="checkbox"/>
羅生門	黒澤 明	1950年 日本	芥川龍之介『藪の中』の映画化。迫力ある語り口と白黒の中に色彩と風が見える驚異的な光と影の表現は人間のエゴイズムを鮮やかに炙り出す。	<input type="checkbox"/>
くじら	大藤 信郎	1952年 日本	過酷な状況下で炙り出される男たちのエゴイズムと性欲。ピカソやコクトーにも絶賛されたカラーセロファンを用いた影絵アニメーション。	<input type="checkbox"/>
東京物語	小津 安二郎	1953年 日本	尾道の老夫婦が東京で暮らす息子達を訪ねる。独自の美学に基づき研ぎ澄まされた演出で緩やかに崩壊する家族の心を浮き彫りにした傑作。	<input type="checkbox"/>
裏窓	アルフレッド・ヒッチコック	1954年 アメリカ	トリュフォーなど芸術派の作家達も敬愛して止まないサスペンスの神様・ヒッチコックは、豊かな実験精神で多くの映像テクニックを確立した。	<input type="checkbox"/>
大地のうた	サタジット・レイ	1955年 インド	ベンガルの田舎で生活する一家の営みを少年オプーの目を通して描く。人と自然、動物、雨や汽車までもが同質に描かれ詩情に溢れている。	<input type="checkbox"/>

■映画 ■アニメーション ■ドキュメンタリー ■アート映像・実験映像 ■美術 ■舞台・演劇・ダンス ■音楽 □その他



「くじら」1952年



「モーション・ペインティング NO.1」1947年



「午後の網目」1943年



「アンダルシアの犬」1928年



「月世界旅行」1902年

タイトル	監督・制作者	制作年	解説	
未来世紀ブラジル	テリー・ギリアム	1985年 イギリス	コンピューターに全てを管理された近未来を描いたSF映画。現実と幻想がないまぜになった奇怪なイメージはまるで悪夢のようだ。	<input type="checkbox"/>
ショア	クロード・ランズマン	1985年 フランス	ユダヤ人大量殺戮の当事者達の証言のみで作られた衝撃作。人間の記憶のみで作られたこの映画は表象不可能な地獄を私達の脳裏に垣間見せる。	<input type="checkbox"/>
フィルム・ビフォー・フィルム	ヴェルナー・ネクス	1985年 ドイツ	映画が発明される以前の「動く絵」にまつわる数々の装置を紹介し、知覚現象を利用した動きのイリュージョンの発達史をたどる。	<input type="checkbox"/>
78回転	ジョルジュ・シュウイツゲル	1985年 スイス	力強いドローイングが生み出す大胆で躍動感溢れる世界。ワルツにのせて、回転するオブジェクトを視点の移動とメタモルフォーゼによって描く。	<input type="checkbox"/>
ストリート・オブ・クロコダイル	ブラザーズ・クエイ	1986年 イギリス	双子の人間アニメーション作家ブラザーズ・クエイが機軸仕掛けと血肉で構成された怪奇幻想の世界は、独特の妖艶さをたたえている。	<input type="checkbox"/>
紅いコーリャン	チャン・イーモウ	1987年 中国	イーモウ監督初期作品の『紅いコーリャン』や『紅夢』には「紅」が印象的に使われている。この色に中国の歴史や文化、人間の感情を込める。	<input type="checkbox"/>
友だちのうちはどこ?	アッバス・キアロスタミ	1987年 イラン	子供たちの自然な表情や振る舞いをドキュメンタリーのようにとらえた奇蹟の一作。イラン版『大人は判ってこない』。	<input type="checkbox"/>
事の次第	ピーター・フィッシュリ デヴィッド・ヴァイス	1987年 スイス	フィッシュリ & ヴァイスはスイスのアーティスト・ユニット。並べられた日常的な物が次々と引き起こす連鎖反応を即物的に捉える。	<input type="checkbox"/>
ゆきゆきて、神軍	原 一男	1987年 日本	神軍平等兵を名乗る奥崎謙三はエワク残部隊の生存者を訪ね、戦線での事実を追及する。過激な奥崎を原のカメラが追い観客は目撃者となる。	<input type="checkbox"/>
木を植えた男	フレデリック・バック	1987年 カナダ	人里離れた荒野でたった一人木を植えた男は、やがて荒地を緑の大海原へと変えた。流れるようなパステル画のタッチが限りなく温かい。	<input type="checkbox"/>
数に溺れて	ピーター・グリーンナウェイ	1988年 イギリス	夫を溺死させようとする同姓同名の母、娘、祖母たち。この死のゲームの絵画的なカットの隅々に、1から100までの数字が散りばめられる。	<input type="checkbox"/>
デカログ	クシシトフ・キエシロフスキ	1988年 ポーランド	デカログとは旧約聖書の十戒の意。ワルシャワ郊外のアパートに住む10人の生活を十戒になぞらえた。各話の映画的時間構成は秀逸。	<input type="checkbox"/>
100人の子供たちが 列車を待っている	イダナシオ・アグエロ	1988年 スペイン	映画を見たことのない貧しい子供達に手作りで映画を教える女性教師の物語。『フィルム・ビフォー・フィルム』と併せて見て欲しい一作。	<input type="checkbox"/>
AKIRA	大友 克洋	1988年 日本	2019年の東京湾に建設されたネオ東京が舞台。同名漫画をアニメーション化した『ジャパニメーション』の先駆となった大友克洋の作品。	<input type="checkbox"/>
動くな、死ね、甦れ!	ヴィクター・E・カネフスキー	1989年 ロシア	大戦直後のロシアを、シベリアの凍く凍んだ光の中に描いたカネフスキー54歳の処女作。絶望と喪失感に閉塞した世界と少年の無垢の眼差し。	<input type="checkbox"/>
その男、凶暴につき	北野 武	1989年 日本	北野武の初監督作品。監督業のきっかけは深作欣二の降板によるものだが、無秩序な暴力と虚無的な死という主題は既に克明に刻まれている。	<input type="checkbox"/>
鉄男	塚本 晋也	1989年 日本	人間の肉体を金属が侵蝕していく暴力と官能。監督が脚本から出演まで1人9役で完成させた強烈なオリジナリティはカルト的支持を受けた。	<input type="checkbox"/>
SITE RECITE	ゲイリー・ヒル	1989年 アメリカ	ゲイリー・ヒルは「ビデオ・アートの第2世代」の作家の一人。クロス・アップされた物体の画像と挿入される言葉の相関が生み出す緊張感。	<input type="checkbox"/>
僕の好きなこと、嫌いなこと	ジャン・ピエール・ジュネ	1990年 フランス	好きなこと一と並走する列車。嫌いなこと一と並走する列車。好きなことと嫌いなことをナレーションで語るアイデアは「アメリ」で踏襲される。	<input type="checkbox"/>
マッチ工場の少女	アキ・カウリスマキ	1990年 フィンランド	マッチ工場で働く貧しい少女の復讐劇。切り詰められた台詞と身振りが、豊かなシンプルさというべき独特のたずまいが妙に可笑しい。	<input type="checkbox"/>
ストーン	アレクサンドル・ソクーロフ	1992年 ロシア	海を離れ白い館へ老作家の魂が帰還する。映画とは常に新しい世界を構築する、魂についての仕事であることをソクーロフの作品は伝える。	<input type="checkbox"/>
ディレクターズカット/ ブレッドランナー 最終版 ※3	リドリー・スコット	1992年 アメリカ	近未来を描いたSF映画の代表作。模型によって生まれた壮大なスケールと、シド・ミードによる近未来のコンセプトは未だ色褪せる事はない。	<input type="checkbox"/>
阿賀に生きる	佐藤 真	1992年 日本	阿賀野川と暮らす人々の生活を3年間現地で生活しながら撮影した作品。川のようにゆったりと流れる彼らの時間はほのぼのと可ましい。	<input type="checkbox"/>
光で書く撮影監督 ストラロロ	デビッド・トンプソン	1992年 イギリス	光と影をペンにして数々のストーリーを描いてきた撮影監督ストラロロ。その撮影哲学、映画理論をインタビューを交えながら紹介する。	<input type="checkbox"/>
親愛なる日記	ナンニ・モレッティ	1993年 イタリア	監督のモレッティが彼自身を自演。軽妙な風刺を散りばめながら、ベスパでのローマ巡りや密告などのエピソードを日記風にのびやかに綴る。	<input type="checkbox"/>
風の丘を越えて-西便制-	イム・グォンテク	1993年 韓国	韓国の伝統芸能パンソリの旅芸人一家の、血ではなく唄で繋がった絆を力強い演出で描く。監督は韓国の溝口健二と呼ばれる巨匠。	<input type="checkbox"/>
部屋 THE ROOM	園 子温	1993年 日本	自主映画出身の監督・園子温が、自分の死ぬべき部屋を探し求めて彷徨う殺し屋を描く。長回し撮影と粒子の荒れた退廃的な世界。	<input type="checkbox"/>
アンダーグラウンド	エミール・クストリツァ	1995年 フランス	力強い映像と音楽。カーニバルのような世界観で、第二次大戦から内戦までの動乱の旧ユーゴスラビア史を綴った悲喜劇。	<input type="checkbox"/>
GHOST IN THE SHELL 攻殻機動隊	押井 守	1995年 日本	2029年の近未来。攻殻機動隊員たちはネットの海に漂いながら、脳核の一部がオリジナルであることを信じて、電腦犯罪の捜査にあたる。	<input type="checkbox"/>
議事堂を梱包する	ヴォルフガング・ヒンゼン ヨルク・ダニエル・ヒンゼン	1996年 フランス	ドイツの旧帝国議事堂を梱包するクリスト夫妻の記録。24年の交渉を経て許可された東の間の梱包の美と、プロジェクトの意味とは?	<input type="checkbox"/>
ローザ・ダンス・ローザ	ティエリー・ドゥ・メイ	1997年 ベルギー	コンテンポラリー・ダンスのカンパニー「ローザ」の初期作品を映像化。反復する身体運動と、ミニマルな音楽・空間の構造的関係性。	<input type="checkbox"/>
A	森 達也	1998年 日本	A=オウム。事件後の信者達にカメラは寄り添う。報道とテレビ、そして私達は彼らが「人間」であることを否定しようとしていなかったか。	<input type="checkbox"/>
ヴァンダの部屋	ペドロ・コスタ	2000年 ポルトガル	破壊されつつある移民街の片隅にヴァンダの部屋がある。去りゆく時間の中で寄り添う人々の姿の中に神聖なまでに美しい一瞬を発見する。	<input type="checkbox"/>
H story	諏訪 敦彦	2001年 日本	脚本なしの即興演出で知られる諏訪敦彦が故郷広島である映画のリメイクを試みる。未完成の本編とメイキングが渾然一体となった異色作。	<input type="checkbox"/>
選挙	想田 和弘	2007年 日本/米	政治についてはズブの素人・山さんがひんなことから議員選に立候補することに。選挙を通じて「ニッポン民主主義」の本質が浮き彫りになる。	<input type="checkbox"/>
ブンミおじさんの森	アビチャポン・ワイラセタクン	2010年 タイ	死期が迫るブンミの前に妻の亡霊と精霊になった息子が現れる。タイの監督が描く、人間と自然、生と死、現世と前世とが共に息づく不思議な世界。	<input type="checkbox"/>
現代建築家シリーズ	現代建築家シリーズ	—	カラトラバ、ル・コルビジエ、安藤忠雄など、優れた建築家たちの作品を紹介、現代建築の潮流を探る。	<input type="checkbox"/>
アートドキュメンタリー シリーズ	ユーロスベース(発売元)	—	美術、建築、音楽、写真などあらゆる分野のアーティストの姿や制作過程を、映像作家が独自の視点で切り取ったドキュメンタリー・シリーズ。	<input type="checkbox"/>
ディレクターズ・レーベル	クリス・カニンガム他	—	クリス・カニンガムやミシェル・ゴンドリーなど、傑出したミュージック・クリップの監督作品をまとめたDVDシリーズ。	<input type="checkbox"/>

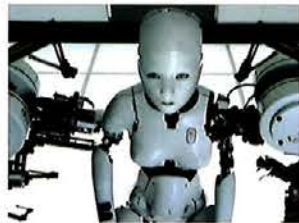
※3 『ブレッドランナー』は1982年に初公開されたが、1992年のディレクターズカット版で新たなシーンが盛り込まれ、監督リドリー・スコット自身の解釈による編集バージョンが最終版として公開された。

■映画 ■アニメーション ■ドキュメンタリー ■アート映像・実験映像 ■美術 ■舞台・演劇・ダンス ■音楽 □その他

IMAGE LIBRARY NEWS 別冊号

発行日: 2013年4月1日
発行: 武蔵野美術大学 美術館・図書館 イメージライブラリー
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736 tel / fax: 042-342-6072
URL http://img-lib.musabi.ac.jp/

監修: 板原緑 (武蔵野美術大学映像学科教授)
編集: 狩野志歩・木村美佐子・久保田桂子・田中友紀子
©2013 Musashino Art University Museum & Library. All Rights Reserved.
【禁無断複製・転載】



「ディレクターズ・レーベル」シリーズより



「数に溺れて」1988年



「78回転」1985年

タイトル	監督・制作者	制作年	解説	
水俣-患者さんとその世界-	土本 典昭	1971年 日本	水俣病患者達の苦悩と変わらない海への思慕。近代化の痛みを見つめると同時に海と人との暮らしを鮮やかにフィルムに刻み込んでいる。	<input type="checkbox"/>
ミツバチのささやき	ビクトル・エリセ	1973年 スペイン	内戦が落ちた暗い影、大人たちが抱える孤独とを繊細に綴りながら、現実と空想の世界の区別がつかない幼い少女の世界を詩情豊かに描く。	<input type="checkbox"/>
土方異 夏の嵐	土方 異(出演)	1973年 日本	戦後日本の前衛ダンスの牽引者であり「暗黒舞踏」の創始者である土方異は、'73年京都大学講堂における舞踏をもち自らの舞踏を封印した。	<input type="checkbox"/>
ファンタスティック・プラネット	ルネ・ラルー	1973年 フランス	青い肌・赤い眼の巨人が支配する惑星が舞台のSFファンタジー。切り紙アニメーション独特の動きでローラン・トールの絵は奇怪さを増す。	<input type="checkbox"/>
インディア・ソング	マルグリット・デュラス	1974年 フランス	映像と分離した「オフの声」—画面に現れない者たちの対話によって、記憶と忘却とのせめぎ合いを体現しながら、熱狂的な愛の物語を綴る。	<input type="checkbox"/>
蛙の求婚	イブリン・ランバート	1974年 カナダ	鏡を腰に下げた蛙が、美しい白ネズミにプロポーズ。スコットランド民謡に合わせたアニメーションで、黒い背景に色鮮やかな切り紙が映える。	<input type="checkbox"/>
カッコウの巣の上で	ミロス・フォアマン	1975年 アメリカ	刑務所の強制労働を逃れるため狂人を装い精神病院へ移送された男は、完全に管理された不条理な世界でやがて本物の狂人になっていく。	<input type="checkbox"/>
ジョーズ	スティーブン・スピルバーグ	1975年 アメリカ	巨大人喰い鮫と人間との戦いを描いたパニック映画。細部まで設計されたショットや人物描写など弱冠27歳の監督の演出力に目を見張る。	<input type="checkbox"/>
旅芸人の記録	テオ・アングロプロス	1975年 ギリシャ	旅芸人一家の物語を軸に現代ギリシャ史を旅する壮大な映像叙事詩。奇跡のような長回し撮影で描かれる圧倒的なスケールの映像美は必見。	<input type="checkbox"/>
アラバスク	ジョン・ウィットニー	1975年 アメリカ	コンピュータ・グラフィックの先駆者ジョン・ウィットニーの代表作。様々な線や図形が複雑な運動を繰り返す抽象映画。	<input type="checkbox"/>
優しい金曜日	田名網 敬一	1975年 日本	アニメーションや版画など、幅広い創作活動を続けるグラフィック・デザイナーの田名網敬一が、自身の少年時代の記憶を走馬燈のように綴る。	<input type="checkbox"/>
道成寺	川本 喜八郎	1976年 日本	日本を代表する人形アニメーション作家・川本喜八郎が、能や歌舞伎の題材となった安清権伝説を脚色、女の情念と業を独自の様式美で描く。	<input type="checkbox"/>
アニー・ホール	ウディ・アレン	1977年 アメリカ	映画の都ハリウッドの対極に位置するニューヨークで活躍する監督が、諷刺と皮肉を効かせながら、都会人の孤独を浮き彫りにする恋愛悲喜劇。	<input type="checkbox"/>
イレイザーヘッド ※1	デビッド・リンチ	1977年 アメリカ	不可解さに満ちていながらも抗い難い魅力をもつ初期の「リンチ・ワールド」。不気味な赤ん坊の父親になった男の悪夢と妄想を描く。	<input type="checkbox"/>
変身	キャロライン・リーフ	1977年 カナダ	ガラス板の上に置かれた砂で絵を描き、下から光を当てるという技法で作られたアニメーション。砂の陰影が画面に豊かな表情を与えている。	<input type="checkbox"/>
ディア・ハンター	マイケル・チミノ	1978年 アメリカ	200万人以上の死者を出したベトナム戦争。アメリカの犯した誤りや精神的肉体的後遺症、挫折感をロリアン系移民の心の襲に重ね描いた秀作。	<input type="checkbox"/>
地獄の黙示録	フランシス・ド・コッポラ	1979年 アメリカ	ジャングルの河沿いに悪夢のように浮かび上がる戦争の狂気。人間の根源的な恐怖を暴き、公開当時賛否両論を巻き起こしたベトナム戦争映画。	<input type="checkbox"/>
十九歳の地図	柳町 光男	1979年 日本	上京してきた新聞配達員の青年は人々への憎しみを込めた地図を作る。行き場の無さと孤独。場末の町を舞台に憤りに満ちた青春を描く異色作。	<input type="checkbox"/>
草迷宮	寺山 修司	1979年 日本	泉鏡花の原作から、青年の手塚探偵に仮託した母遺書の物語を、幻想・過去・現在を交錯させる手法で叙いた哀切な抒情に溢れた物語。	<input type="checkbox"/>
リフレクティング・プール	ビル・ヴィオラ	1979年 アメリカ	ビル・ヴィオラは現代美術において高く評価されるビデオ・アーティスト。森の中のプールをビデオの手法で捉え時間の重層化を試みる。	<input type="checkbox"/>
王と鳥 ※2	ポール・グリモー	1979年 フランス	中世的な世界にロボットなどのSF的要素がふんだんに盛り込まれたファンタジー。宮崎駿にも多大な影響を与えたことが随所に見取れる。	<input type="checkbox"/>
話の話	ユージ・ノルシュテイン	1979年 ロシア	オオカミの子を狂言回しに繰る叙事詩アニメーションの一作。母の子守唄、戦争に駆り出される男たち。子供時代の思い出を詩情豊かに描く。	<input type="checkbox"/>
ツイゴイネルワイゼン	鈴木 清順	1980年 日本	サラサテのレコード盤が誘う、現実と幻想の交錯した狂気の世界。鬼才・鈴木清順が極彩色で彩る、生と死、エロスの沸き立つ大胆な幻想譚。	<input type="checkbox"/>
タンゴ	ズビグ・リブチンスキー	1980年 ポーランド	飛び込んだボールを取りにきた少年を筆頭に、順々に人が室内に入ってくる。数千枚のコマをタンゴのリズムに合わせて構成した不思議な作品。	<input type="checkbox"/>
泥の河	小栗 康平	1981年 日本	戦後、復興始めた大阪。河岸のうどん屋の少年は、対岸に繋がれた郭郭に住む姉弟との出会いと別れの中で、初めて生きることの痛みを知る。	<input type="checkbox"/>
コヤニスカッティ	ゴッドフリー・レジオ	1982年 アメリカ	コヤニスカッティとはアメリカ先住民ホピ族の言葉で「平衡を失った世界」の意。文明と自然の関係をナレーションのない圧倒的な映像で綴る。	<input type="checkbox"/>
フィツカラルド	ヴェルナー・ヘルツォーク	1982年 ドイツ	神話の世界を見つめ続ける超時代的作家・ヘルツォークが、ペルーの未開の地でオペラハウスを建設しようとする男の物語を描く。	<input type="checkbox"/>
ルアッサンブラージュ	トリン・T・ミンハ	1982年 アメリカ	客観的記録を批判し、意味とフレームから解放された「眼差し」の映像をもってアフリカの女性を捉えた作品。柔らかく繊細な撮影が美しい。	<input type="checkbox"/>
天使	パトリック・ボカノウスキー	1982年 フランス	7つのシークエンスからなる悪夢的映像詩。美しく神経症的な弦の音と細密な特殊効果撮影から生み出された鮮烈なイメージの奔流。	<input type="checkbox"/>
ボーイ・ミーツ・ガール	レオス・カラックス	1983年 フランス	1980年代のフランス映画界で最も作家的な生き方をした「恐ろべき子供」カラックス。自らの魂を吐露した夜のナリの情景は美しくも物悲しい。	<input type="checkbox"/>
ラルジャン	ロベール・ブレッソン	1983年 フランス	偽札によって破滅へと導かれる青年。孤高の映画作家ブレッソンの、台詞と演技を極力排した禁欲的な演出が、より鋭く研ぎ澄まされた遺作。	<input type="checkbox"/>
風櫃の少年	ホウ・シャオシェン	1983年 台湾	兵役を直前に控えた少年達の無為でかけがえのない時間を捉えた青春映画。のびのびとした新しい肌触りを持つ台湾ニューウェイブの代表作。	<input type="checkbox"/>
家族ゲーム	森田 芳光	1983年 日本	囁くような会話、音楽を一切使用せず現実音を誇張した音処理、ねじれた空間…。現代の家族関係をシニカルにシュールに描くホームドラマ。	<input type="checkbox"/>
DRILL	伊藤 高志	1983年 日本	社会の内外の境界である集合住宅の下駄箱の空間を歪曲した世界観でみせる。体育館をスクールでコマ撮りした『SPACY』も初期の代表作。	<input type="checkbox"/>
カオス=シチリア物語	タビアーニ兄弟	1984年 イタリア	ピランデッロの短編集『一年間の物語』から選ばれた6話から成る。カラスが狂言回しとなり描かれるトスカーナの美しく幻想的な物語。	<input type="checkbox"/>
ストレンジジャー・ザン パラダイス	ジム・ジャームッシュ	1984年 米/西独	ワンシーン・ワンカットで済まない若者の日常を描いた低予算映画。独特の感性が各方面で話題となり、インディーズブームを巻き起こした。	<input type="checkbox"/>
パリ、テキサス	ウィム・ヴェンダース	1984年 仏/西独	放浪から帰還した男が幼い息子と絆を確かめ合いながら失踪した妻を捜す。ドイツ人監督がアメリカの風景の中に描く家族の再生と人間の孤独。	<input type="checkbox"/>
ダウンサイド・アップ	トニー・ヒル	1984年 イギリス	カメラが水平垂直方向に回転運動を繰り返しながら半周ごとに新たな空間へ移行する。カードの表裏のように世界を切り取った驚きのカメラ眼。	<input type="checkbox"/>
ジャンピング	手塚 治虫	1984年 日本	漫画界の巨匠・手塚治虫は、実験アニメーションの世界でも大きな功績を残した。ジャンプし続ける子供の視界をワンカットで描いた作品。	<input type="checkbox"/>
パラダイス	イシュ・パテル	1984年 カナダ	インドの古い詩を題材にした切り紙アニメーション。純潔豪華な王宮は、背景画に穴を開け、後ろから光を当てるという手法で制作されている。	<input type="checkbox"/>

※1 『イレイザーヘッド』は、1977年公開版の音響に不満をもって監督のデビッド・リンチが、1993年に自ら音響をドルビー・ステレオ化した『イレイザーヘッド完全版』として再構成した。

※2 グリモーは1947年に『やぶにらみの暴君』の制作に着手したが、4年経っても完成せず、プロデューサーがイギリスでラストを追加して完成させてしまう。この不本意な公開から27年を経てグリモーが完成させたのが本作『王と鳥』である。



「DRILL」1983年



「草迷宮」1979年



「イレイザーヘッド」1977年



「道成寺」1976年



「旅芸人の記録」1975年